

2017年2月期第2四半期

(2016年3月1日～2016年8月31日)

決算説明会

わらべや日洋ホールディングス株式会社



(2918)

2016年10月7日



本日のスケジュール

◆ 開会 11:45～

- 1.【2017年2月期第2四半期業績報告
及び2017年2月期業績予想】…………… 取締役常務執行役員 浅野 直
- 2.【下期の取組み 今後に向けての施策】…………… 代表取締役社長 大友 啓行
3. Q & A

◆ 閉会 12:45 (予定)

2017年2月期第2四半期業績報告 及び2017年2月期業績予想



2017年2月期第2四半期連結業績

(単位:百万円)

	2015.8期	2016.8期		前年 同期比	期初予想比
	実績	期初予想	実績		
売上高	108,430 (100.0)	111,200 (100.0)	109,658 (100.0)	1,227 <1.1>	△1,541 <△1.4>
営業利益	2,386 (2.2)	2,800 (2.5)	3,027 (2.8)	640 <26.8>	227 <8.1>
経常利益	2,677 (2.5)	2,900 (2.6)	3,287 (3.0)	610 <22.8>	387 <13.4>
四半期 純利益 (当社株主に帰属)	1,890 (1.7)	1,750 (1.6)	1,644 (1.5)	△246 <△13.0>	△105 <△6.0>
EPS(円) (当社株主に帰属)	107.47	99.78	93.78	△13.69	△6.00

* () 内は売上比率 (%)、<> 内は増減率 (%)、2016.8期予想は2016年4月13日発表の予想数値

期初予想との差異要因

(単位:百万円)

	2016.8期		予想差異
	期初予想	実績	
売上高	111,200 (100.0)	109,658 (100.0)	△1,541 <△1.4>

【差異要因】

食品関連事業	△16.5億円
おにぎり	△17億円
すし	△2億円
惣菜	△3億円
和菓子	+6億円
食材・物流・その他事業	+1.1億円

(単位:百万円)

	2016.8期		予想差異
	期初予想	実績	
営業利益	2,800 (2.5)	3,027 (2.8)	227 <8.1>

【差異要因】

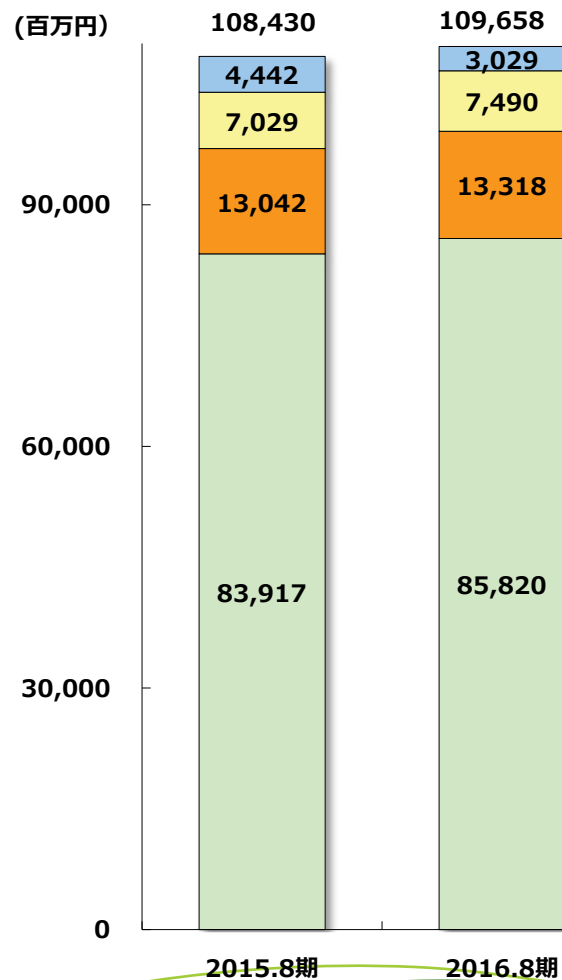
食品関連事業	+1.7億円
内、既存工場売上計画未達影響	△1.4億円
内、水道光熱費	+2.4億円
内、新工場	+1.1億円
食材・物流・その他の事業	+0.6億円

* () 内は売上比率 (%)、<> 内は期初予想比増減率 (%)、2016.8期予想は2016年4月13日発表の予想数値

セグメント別売上高の状況(前期比)

(単位:百万円)

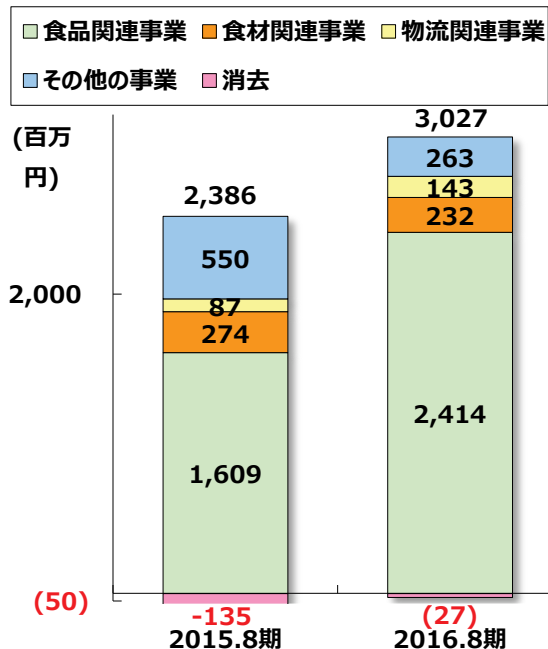
* <> 内は増減率 (%)



	2015.8期	2016.8期	増減	増減要因
売上高合計	108,430	109,658	1,227 <1.1>	
食品関連	83,917	85,820	1,902 <2.3>	納品店舗増、「チルド弁当」「調理パン」「和菓子」の売上伸長
食材関連	13,042	13,318	276 <2.1>	「魚卵」「鮭鱒」の売上伸長
物流関連	7,029	7,490	461 <6.6>	セブン-イレブン向け共同配送事業等の取扱高増加
その他	4,442	3,029	△1,412 <△31.8>	食品製造設備事業で前年同期の大型案件の反動減

セグメント別営業利益の状況(前期比)

(単位:百万円) * <>内は増減率 (%)



	2015.8期	2016.8期	増減
営業利益合計	2,386	3,027	640 <26.8>
食品関連	1,609	2,414	804 <50.0>
食材関連	274	232	△41 <△15.1>
物流関連	87	143	56 <63.8>
その他	550	263	△287 <△52.1>
全社費用・消去	△135	△27	108 <->

新規三工場で
前期比
+9.4億円

既存工場で
前期比
△1.4億円

食品
関連
事業

香川工場損益改善
+2.3億円

浦和工場損益改善(赤字縮小)
+2.3億円

岩手工場初期赤字縮小
+4.8億円

労務費増 △3.5億円

償却費増 △0.6億円

その他 △0.7億円

水道光熱費減少 +3.4億円

食材・物流・その他事業、全社消去 △1.6億円

減少要因計 △6.4億円

前期比 約6.4億円増

増加要因計 +12.8億円

営業外損益・特別損益のポイント

(単位：百万円)

	2015.8期	2016.8期	増減
営業利益	2,386 (2.2)	3,027 (2.8)	640 <26.8>
営業外収益	443 (0.4)	483 (0.4)	40 <9.0>
営業外費用	153 (0.1)	223 (0.2)	70 <45.9>
経常利益	2,677 (2.5)	3,287 (3.0)	610 <22.8>
特別利益	- (-)	- (-)	- <->
特別損失	132 (0.1)	450 (0.4)	317 <240.2>
税金等調整前 四半期純利益	2,545 (2.3)	2,837 (2.6)	292 <11.5>
法人税等合計	654 (0.6)	1,193 (1.1)	538 <82.4>
四半期純利益 (当社株主に帰属)	1,890 (1.7)	1,644 (1.5)	△246 <△13.0>

(当期) 450
日洋：フレボファーム南アルプス農場固定資産減損
にともなう、関係会社事業損失引当金繰入

(増減) 538
①設備投資減税の縮小 324
②税効果会計対象外の
関係会社事業損失引当金計上 159

* () 内は売上比率 (%) <> 内は増減率

連結貸借対照表のポイント

(単位：百万円)

【資産】	2016.2期	2016.8期	増減
流動資産	30,235	37,326	7,091
固定資産	47,099	48,040	940
(有形固定資産)	(41,345)	(41,969)	(623)
(無形固定資産)	(689)	(943)	(254)
(投資その他)	(5,064)	(5,127)	(62)
資産合計	77,334	85,367	8,032

(単位：百万円)

【負債・純資産】	2016.2期	2016.8期	増減
流動負債	23,423	29,187	5,763
固定負債	12,381	13,938	1,557
(有利子負債)	(10,886)	(11,980)	(1,094)
負債合計	35,805	43,126	7,320
純資産合計	41,529	42,240	711
(資本金)	(8,049)	(8,049)	-
負債・純資産合計	77,334	85,367	8,032

資産合計－約 80億円の増加

- 流動資産（売上債権等）の増加 : 約70億円
- 固定資産の増加 : 約9億円

負債・純資産合計－約 80億円の増加

- 流動負債（支払債務等）の増加 : 約57億円
- 固定負債の増加 : 約15億円
- 純資産（利益剰余金、その他の包括利益）の増加 : 約7億円

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

	2016.8期	(単位:百万円)
税金等調整前四半期純利益	2,837	
減価償却費	2,320	
売上債権の増減額(△は増加)	△3,894	
たな卸資産の増減額(△は増加)	△487	
仕入債務の増減額(△は減少)	1,954	
未払金の増減額(△は減少)	567	
その他	2,123	
小計	5,421	
法人税等の支払額	△283	
その他	278	
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,415	
有形固定資産の取得による支出	△843	
その他	△567	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,411	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,175	
現金及び現金同等物に係る換算差額	△93	
現金及び現金同等物の増減額	2,736	
現金及び現金同等物の期末残高	9,229	

2017年2月期 連結業績予想（期初予想比）

	期初予想（単位：百万円）				修正予想（単位：百万円）		
	上期	下期	通期		上期実績	下期	通期
売上高	111,200 (100.0)	105,800 (100.0)	217,000 (100.0)		109,658 (100.0)	105,342 (100.0)	215,000 (100.0)
営業利益	2,800 (2.5)	500 (0.5)	3,300 (1.5)		3,027 (2.8)	672 (0.6)	3,700 (1.7)
経常利益	2,900 (2.6)	500 (0.5)	3,400 (1.6)		3,287 (3.0)	662 (0.6)	3,950 (1.8)
当期純利益 (当社株主に帰属)	1,750 (1.6)	△150 (△0.1)	1,600 (0.7)		1,644 (1.5)	155 (0.1)	1,800 (0.8)

	差異			要因
	上期実績	下期予想	通期予想	
売上高	△1,542 <△1.4>	△458 <△0.4>	△2,000 <△0.9>	上期 ◆売上高 - 米飯の計画未達 ◆営業利益 - 水道光熱費は当初見込み比で抑制 - 新工場は期初予想を超過達成 - 食材・物流・その他事業はほぼ計画通り 下期 ◆売上高 - ほぼ期初計画どおり ◆営業利益 - 食品関連事業を上方修正 - 食材・物流・その他事業はほぼ期初予想通り
営業利益	227 <8.1>	172 <34.4>	400 <12.1>	
経常利益	387 <13.3>	162 <32.4>	550 <16.2>	
当期純利益 (当社株主に帰属)	△106 <△6.1>	305 <->	200 <12.5>	

* () 内は売上比率 (%)、<> 内は増減率 (%)

下期の取組み

今後に向けての施策



上期の概況、下期及び今後の施策

上期の概況

売上

前年同期比増収も計画未達

新工場

香川工場：損益改善

浦和工場：回復傾向

岩手工場：赤字縮小

営業利益

前年同期比増益、期初予想を超過
営業利益率は
2.5%(期初予想)→2.8%で着地

下期及び今後の施策

常温米飯群の取組みも強化
新規分野への挑戦

チルド弁当を拡充

引き続き生産効率の向上を図る

生産効率の改善
採用強化・定着化

- ✓ 上期は組織体制の見直し(商品開発・製造の一体運営)による効率化が進捗
- ✓ 下期以降は製造子会社の統合・持株会社化によるメリットの追求と更なる効率化を推進

売上：上期の実績と今後の施策

チルド弁当：好調

- 丼タイプ・セパレートタイプ共に新製品を強化。
既存工場では製造能力をアップ。また、過熱蒸気ラインに新工程を加えることで、より本格的な製品の開発も可能に。



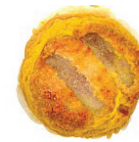
20℃弁当：チルド化を背景に減少

- 上期は前年同期比で減少したが、店頭品揃えの意味でも重要性は変わらない。
20℃弁当でしか表現できないおいしさを追求した新商品開発を継続。



おにぎり：ほぼ前年並み

- 9/26に基本具材とパッケージのリニューアルを実施。
今後も消費者満足度の高い新商品を開発。



和菓子：好調

- 季節感を大切にしたいスイーツの新製品を相次いで提案。
パティシエを採用、洋菓子のノウハウを取り入れた新しいタイプの和スイーツが好評。



その他

- 新分野への挑戦。

商品施策その①：親子丼 リニューアル

2014年11月24日
ふんわり玉子のこだわり親子丼



¥430 (税込)



2016年10月3日より順次展開
ふわとろ玉子のこだわり親子丼



¥450 (税込)

➤ 鶏肉下処理（漬け込み）工程

専用機器『真空タンブラー』を使用することで、鶏肉の芯までの味染みを実現。鶏肉の旨味がより感じられる仕上げに。

➤ 割り下の旨味向上

大手食品メーカー2社の共同開発により、1社では出来なかった濃厚で香味の強い熟成感のある『かえし』を実現、より深みのある味わいに。

➤ 半熟卵

大手食品メーカーとの取組みにより大きめの半熟卵を選別、より卵の濃厚な味わいを感じられる一品に。



商品施策その②：和スイーツの展開

- 和菓子専門店でも洋菓子の技術を取り入れた和スイーツが大人気
- 当社でもパティシエを採用し、洋菓子のテイストを取り入れた商品開発を強化
 - 女性社員が開発した「もちり白いレアチーズどら」が大ヒット
- 2014年10月の「クリームたっぷり生どらやき」を皮切りに、少人数生産が可能な全自動どらやき機を活用した商品を相次いで投入。10月からは「ちょこくりいむどら」を投入。



新工場：上期の概況と下期の施策

➤ 香川工場、浦和工場、岩手工場の2017年2月期第2四半期累計実績

新工場利益増減(億円)

	前年同期比	(参考) 通期予想営業利益実額
香川	+2.3	(△0.5)
浦和	+2.3	(△0.5)
岩手	+4.8	(△5.0)
計	+9.4	(△6.0)



香川工場 (2013年12月稼働)

生産食数：最大20万食/日

生產品目：米飯、麺類

➤ 香川工場

納品店舗数の増加に加え、チルド弁当の増収と効率化の推進により、第2四半期は収支共に計画を上回る進捗。下期も引き続き効率化を進め、さらなる改善を目指す。

➤ 浦和工場

チルド弁当の増収に加え原価管理の徹底により、単月では黒字化を達成。下期にはラインも増強し、差別化された商品を開発予定。

➤ 岩手工場

納入店舗増により稼働率が上がったこと、初動経費が解消したこと、などから営業赤字は計画を上回るペースで順調に縮小。下期も改善努力を継続。



浦和工場 (2014年6月稼働)

生産食数：最大10万食/日

生產品目：チルド弁当



岩手工場 (2015年5月稼働)

生産食数：最大25万食/日

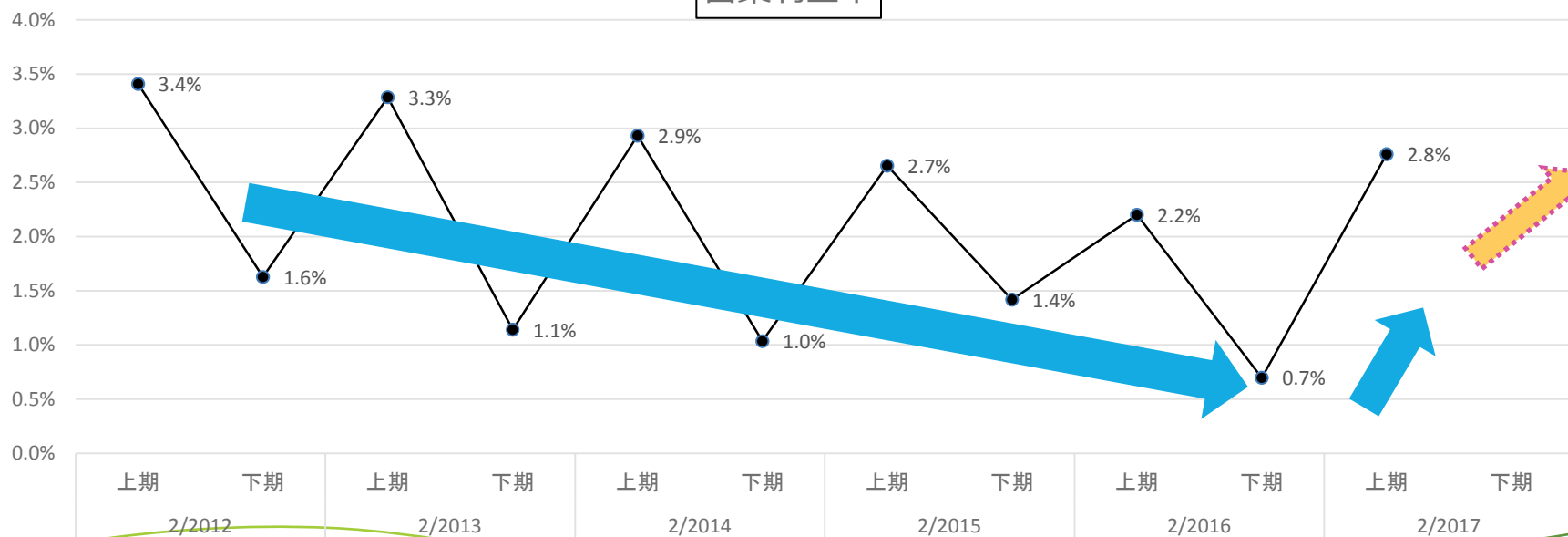
生產品目：米飯、麺類、惣菜

営業利益：営業利益率改善への取り組み

- 事業本部制（開発と生産の一体運営）による原価管理の強化
- 生産アイテムの絞込み
- 製造工程での機械化の推進
- パート従業員定着化による習熟度のアップ

などの施策でカバーして利益率の改善を図る

営業利益率



製造工程での機械化の推進

省人化



人手不足を緩和

労働災害の減少
(パート従業員の安全
に配慮した職場環境)



パート従業員の定着化

初期段階から機械メーカーと
共同で開発を行うことにより、
わらべや仕様の機械を実現



わらべやしか作れない
差別化された競争力のある
商品作りが可能に

人手不足への対応策：採用の強化と社員の定着化

- 子会社統合・持株会社化を機に人事制度を見直し、社員の処遇改善を図る。
- 2大プロジェクトも始動！
 - ♡ 女性ハッピープロジェクト：～女性社員が長く生き生きと働くために～
 - ★ 輪らべやプロジェクト：～社員間、社員の家族と会社の交流を深める～

経営基盤を強化し、更なる成長を目指す

外部環境の変化

- ✓ 2016/9/1
ユニー・ファミリーマートHD誕生
- ✓ 2017/1
ローソン：TOBにより三菱商事の連結子会社に

- ✓ ホールディング化（2016/9/1付）：
 - －製造体制一本化による意思決定の迅速化
 - 品質保証体制の強化
 - －管理部門の統合による人材の最適配置と効率化
- ✓ 資産の再評価
 - －前期：上田工場、南アルプス工場の減損
 - －今上期：関係会社事業損失引当金繰入(フレボファーム)

経営基盤を強化し、競争力のある商品の供給し続けることにより、
セブン-イレブンとともに成長を続ける

その他のトピックス

➤ 情報開示の充実

- ホームページの全面改訂（9/1付）

- 過去の有価証券報告書・決算短信を10期分掲載

- 説明会資料を3期分掲載

- 英語サイトの充実

➤ コーポレートガバナンスの強化

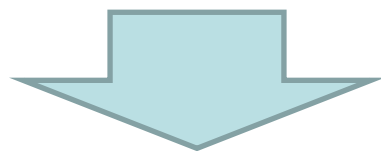
- コーポレートガバナンス・コード対応報告書を提出（7月）

- 社外取締役の増員を検討

- 議決権行使プラットフォームの導入・招集通知英訳を実施予定

来期以降にむけて

- 上期の高進捗を受けて2017年2月期通期予想を上方修正
下期は来期以降の成長に向けた課題の抽出と施策の検討に着手
- 想定される課題
 - ー労務費の増加：最低賃金の上昇と人手不足によるコストアップ
 - ーチルド化の進展：生産能力増強への対応
 - ー事業環境の変化：コンビニエンス業界競争激化



さまざまな経営課題をクリアし、2017年2月期決算発表時に開示する次期中期経営計画（3カ年）中にROE8%以上の達成を目指す

グループ理念

私たちは「安全・安心」と「価値ある商品・サービス」の提供を通じて
お客様の健康で豊かな食生活に貢献します。

Warabeya
Nichiyo

Warabeya
USA

NICHIYO

Warabeya
Nichiyo HLDGS.

Bestrans

PROSYSTAS

Socialink

その他関連事業

国内

株式会社 日洋フレッシュ

株式会社 サンフーズ横倉

株式会社 日鰻

株式会社 フレボファーム

国外

北京旺洋食品有限公司

北京日洋欣荣商贸有限公司